

## 編集後記

お茶の水女子大学ジェンダー研究センサー年報『ジェンダー研究』第11号が無事刊行の運びとなった。執筆者の方々、査読の先生方、校正をお願いした方々、IGSスタッフの皆様、編集委員の先生方など、本号刊行にご協力いただいた方々に、深くお礼申し上げたい。

今号では、昨年度のIGS客員教授でいらしたハイディ・ゴットフリード先生（ウェイン州立大学准教授）と、本年度のIGS客員研究員でいらっしゃる菅野琴先生（前駐ネパールユネスコ代表、カトマンズ事務所長）からご寄稿いただくことが出来た。ゴットフリード先生の論文は、昨年のIGSセミナーで講演いただいた「労働に関するフェミニスト政治学」を中心に執筆いただいた。菅野先生にも、やはり本年度のIGSセミナーで講演いただいた「ネパールの女子教育についてのユネスコの取り組み」について執筆いただいた。

また、研究論文としては、5本もの若手研究者の方々の論文を掲載することが出来た。内容としては、まず、文学系論文を2本掲載することが出来たことは、文学研究者として嬉しく思うと同時に、倉田氏の日本文学における「老い」の問題、中川氏の英文学におけるジェンダー表現、升野氏の高等学校の教科書における男女差の問題、佐藤氏のアメリカの議論を中心とした同性パートナーシップの問題、シン氏の韓国における女性運動についてなど、幅広い分野と文化に関する論文を掲載することが出来たことは、大変に喜ばしいことであると感じている。

研究プロジェクト報告としては、私が取り組んでいる、『明治女性翻訳文学』に関する研究で用いている、主に北米で論じられる「トランスレーション・スタディーズ」の理論的枠組みについて触れている。この理論のような、これまで見逃されてきた文学分野に新たな価値を与え、再評価する、ということが、近年の文学理論の中心的役割のひとつであると言える。そして、その「再評価」の姿勢は、文学だけでなく、さまざまな女性やマイノリティーの文化に応用できる、また、されるべき視点であり、今回、研究プロジェクト報告として、紹介しておきたいと考えた。

書評としては、アジア、北米、日本という3つの文化地域についての著作を紹介することができた。

今号は、編集事務局の理想として「多様な文化圏におけるジェンダーのあり方」をテーマにしたい、と考えていた。結果として、3本の英文論文、国際色豊かな菅野先生やシン研究員の論文、翻訳著書に関する森先生の書評などを掲載することが出来、その理想を実現することが出来たのではないかと考えている。そうであるとすれば、昨今のグローバリゼーションの時代において、『ジェンダー研究』がその流れをしっかりと受けとめ、時代と共に進化、発展していることは、何より喜ばしいことである。

最後に、今号の刊行にご尽力いただいた皆様に改めて感謝申し上げると共に、今後とも『ジェンダー研究』への支援、協力をお願い申し上げたい。

編集事務局 山出 裕子（研究機関研究員）

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報  
『ジェンダー研究』

第11号 編集委員会

委員長	足立真理子	ジェンダー研究センター長 ジェンダー研究センター准教授
	坂本 章	文教育学部人間社会科学科教授
	徳井 淑子	生活科学部人間生活学科教授
	三浦 徹	文教育学部人文科学科教授
	森 義仁	理学部化学科准教授
	館 かおる	ジェンダー研究センター教授
	市井 礼奈	ジェンダー研究センター専任講師
事務局	山出 裕子	ジェンダー研究センター研究機関研究員

---

平成20年3月24日 印刷

平成20年3月26日 発行

編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1  
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845  
E-mail igs@cc.ocha.ac.jp  
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 福博印刷株式会社

Tel 03-5765-6775 Fax 03-5445-6795

---